

学校教育目標「認め合い ひびき合い 高め合う子どもの育成」

絵本 ... 「たいせつなこと」

----- マーガレット・ワイズ・ブラウン 作 -----

朝、バス通学の子もたちを横断歩道のところで迎え、交通整理のおじさんと一緒に子どもたちを見送って、学校裏の駐車場へ着く。

その頃から、3年生の子どもたちの仕事が始まります。グランドの隅にあるサツマイモの畑に水をやるのです。小さな体に多少大いかと思われる如雨露(じょうろ)にいっぱい水を入れて、グランドを横断していきます。中には両手に如雨露を持ってヨロヨロしながら運んでいく子もいます。雨降り以外毎日...。水をやり終えると...、なぜかみんな走って戻ってきて、また水を入れてサツマイモ畑へ。2往復程するのでしょう。

「サツマイモさんは元気でしたか？大きくなってきたかな？」と聞くと、「わかんない」とにこにこしながら答えてくれました。とても一生懸命で...とても偉いです。サツマイモの命をみんなで協力して守っているですね。

サツマイモさんは、きっと喜んでますよ。

ひなぎくは しろい

まんながが きいろく
ながくて しろい はなびらには
はちが ちょこんと すわり
なんだか くすぐったい

かがりが して
ひろい みどりの そうげんに
よりそい ささやきあっている



でも
ひなぎくに とって
たいせつなのは
しろく あること



平泉・松島
仙台への旅

6年生修学旅行今日出発

「行ってきまーす！」



先日、6年生の「朝の会」を参観しました。「象潟の昔っこ」...方言で書かれた郷土の昔話のお話を担任の先生が読んでくださっていました。こんなお話です...

「お紅蓮」という、上郷地区の昔話です。観音様から授かった女の子の名前が「紅蓮」。その紅蓮が嫁いでいく先が「松島」なのでした。小さいときから観音様の縁で結婚を約束した男の子といよいよ結婚というので松島へ出かけていくと...相手は数日前に亡くなってしまっていて結婚できません。周りの人々は嘆き悲しむのですが...紅蓮は、「これも縁、私はあの人と結婚するのを楽しみに生きてきたのだから...象潟へは帰りません。」と言って、松島に残って残された親の面倒をみるのでした。のちに瑞巖寺の尼となります。そして、せんべいを焼くようになって象潟へ帰ってくることに...

方言で話す担任の声に真剣に耳を傾けている6年生。このお話に隠されていた秘密...



それは、紅蓮が焼いていたせんべいが、今も象潟の名物「こうれんせんべい」であり、象潟と松島が姉妹都市になったいわれでもあると言う。修学旅行に向けて6年生はいろいろと調べ学習をしました。調べたことを、実際に今日からの旅行で確かめてくるでしょう。修学旅行は「学習を修める旅」なのです。「行ってらっしゃーい！」